

単元名 総合防災訓練, 地域防災学習

【単元の概要】

本校では毎年11月を本校の防災月間とし、校区内の諸団体と協働しての総合防災訓練を実施している。この総合防災訓練を柱にしながら3年間を見通した計画的な防災学習を実施している。

本単元は、3年間の防災学習の導入に位置付けており、地域の皆さんの力をお借りしながら校区内の危険箇所を調査し「防災新聞」という形にまとめ地域へ発信していく活動である。

学習指導要領の領域・内容

地域や学校の特色に応じた課題

他教科との関連

国語 社会 理科 技術 道徳

◆単元について◆

1年生での単元学習の土台として、毎年11月に校区内の自治会・女性会・敬老会・社会福祉協議会・幼稚園・小学校・中学校・障害者福祉施設など、様々な団体が参加して実施している地域総合防災訓練がある。生徒は、小学校1年生の時からこの防災訓練に参加し、地域と一体となって様々な体験を通して学習を積み重ねている。この積み重ねが生徒たちの「協働的な態度」の土台となっている。このことを踏まえた上で、本単元は中学校3年間の防災学習の導入に位置付けたものである。

◆単元の目標◆

- ・災害発生時の校区内の危険箇所について調べ、地域防災の課題（学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関すること）に気付く。
〔知識・技能〕
- ・地域防災の課題の解決に向けて自分たちがどのような形で貢献できるかを考え実践する。〔思考力・判断力・表現力〕
- ・地域防災への意識を高め、地域と協働して地域防災に貢献していく意欲と態度を育てる。
〔協働的な態度〕

◆単元の展開◆

学習過程	生徒の思考の深まり	指導のポイント
<p>情報の収集（3）</p> <p>身近な人から災害が発生したときの様子について聞き取る。</p> <p>（本時1／3）</p> <p>聞き取りをしてきた内容について交流し、地域における災害の実態についての認識を深める。</p>	<p>○昨年の豪雨災害は大変だったね。 ○うちは1週間も断水して水の確保で苦労したよ。 ○この辺りは坂道も多くこれまでも色々な災害で被害が出たらしいよ。 ○これまでに災害でどんな被害があったのかを調べてみよう。</p> <p>地域の災害の様子や歴史に関心をもつ</p> <p>○西日本豪雨災害ではこのあたりでも崖が崩れたりして危険な箇所がたくさんあったんだね。 ○私たちが生まれる前にも大きな被害の出る災害があったんだね。 ○地域を流れている2つの川も氾濫して大きな被害があったそうだよ。 ○地形的にこの辺りは危険な箇所が多いんだね。</p>	<p>■西日本豪雨災害での体験を踏まえて地域の様子に目を向けさせる。</p> <p>■急傾斜地が多いことや地域を2つの川が流れていることなど、地域の地形等にも注目させ課題に迫らせる。</p>

課題の設定（４）

地域防災につながる防災新聞を作成し、地域に配布しよう。

- 地域の防災を進めていく上で自分たちができることはないだろうか。
- 地域の危険箇所をまとめた防災マップを作ろう。
- でも、それは小学校のときにやったから、地域防災に役立つような新聞を作成してはどうだろう。
- 危険な箇所がある地域ごとにまとめるといいんじゃないかな。
- 完成した新聞を地域に配布するというのはどうだろう。

■小学校のときに防災という視点も含めた「安全マップづくり」に取り組んでいることから、更に発展させて何ができるかを考えさせる。

防災という視点から、校区内を実際に調査して新聞にまとめよう。完成した新聞を地域に配布しよう。

呉市のハザードマップを利用して、地形図から危険箇所を読み取る方法を学習しよう。

防災という視点から考えると、自分たちの暮らしている地域にはたくさんの課題があることを認識する。

- 呉市が作成しているハザードマップを参考にして地域の危険箇所を確認するのはどうだろう。
- でも、それをそのまま写すのでは意味がないような気がするな。
- 地形図を読み取ればある程度どこが危険かが分かるんじゃないかな。
- でも、読み取り方が分からないな。
- 救急活動をしている専門家の人に教えてもらえないかな。

■呉市消防局から GT をお招きして、ハザードマップの参考に地形図から危険箇所を読み取る方法を指導してもらおう。

情報の収集（５）

自分たちの暮らしている地域の地形図を読み取って危険な箇所を確認しよう。

呉市消防局から専門家をお招きして地形図の読み取り方を学習しよう。

- こうして地形図を見るだけで、急傾斜地が多いのがよく分かるね。
- 川が流れているから危険だね。
- 去年の豪雨災害は辰川の水がもう少しであふれるくらいまで増水していたよね。
- GTのおかげで、小学校のときに安全マップを作ったときより、更に詳しく地域の危険箇所を確認することができたね。



■班ごとに大きな地形図を読み取りながら色マジックを使って危険な箇所を確認していく。

実際に現地で危険箇所の調査活動をするための準備をしよう。

地形図だけで危険な箇所を読み取ることによって、次の活動～現地でのフィールドワーク～への意欲が高まってくる。

- これだけ危険な箇所があるから、分担して調査しよう。一箇所を1つの班で調べるのではなく、複数の班で調べた方が色々な発見があると思うよ。
- どんな新聞にするのかもあらかじめ考えて、ある程度のレイアウトを計画して必要な写真の枚数も確認しておこう。
- 地域の自治会の人たちと一緒に回るのはどうだろう。
- 実際に生活している人のアドバイスは貴重だから、依頼しよう。



■学年全体での取組なので各学級のリーダーで実行委員会を組織し調査活動の計画を立案させる。

まとめ・創造・表現
(5)

フィールドワークで調査した内容を「防災新聞」にまとめていこう。



- 班ごとに調査した内容をわかりやすく新聞にまとめていこう。
- いざという時どうしたらいいのかもまとめておきたいね。
- 調べた内容を全校の生徒に報告するのはどうだろう。
- 文化発表会なら生徒だけでなく保護者や地域の人たちにも報告できるよ。

- 地域との連携について生徒から意見が出ない場合は教師がそのような視点を示す。
- 新聞の完成イメージをもつて調査に向かうことが大切である。
- 協力してくださる自治会の皆さんには事前に生徒たちがどのような学習をしているのか、また調べた内容をどのようにまとめようとしているのかについて丁寧に連携をしておく。
- 「新聞コンクール→文化発表会での発表→地域への新聞の配布」という活動についても実行委員会の生徒たちが中心になって主体的に進めていくように仕組んでいく。

◆本時の展開◆

(1) 本時の目標

西日本豪雨災害の地域での被害の様子について自分たちの体験を出し合い、課題を見付けるとともに、地域のために、地域の方や仲間と協働して行動する大切さに気付く。

[知識・技能、協働的な態度]

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 《評価方法》
<p>1 7月の豪雨災害の時の校区内にある川の様子や呉市役所周辺が浸水した様子をまとめた動画を視聴する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴後、指導者自身の体験や感じたことを伝える。 ・自分の家だけでなく自分の家の周囲であった被害等についても意見を出させる。 	
<p>今回の災害でどのような被害があったか、また生活にどのような影響があったかを交流してみよう。</p>		
<p>2 班単位で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 被害や受けた影響を出し合ったら、共通点等を確認しながら全体に発表できるように整理する。 <p>3 班の意見を全体で交流しながら、自分たちの地域の特徴を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとにまとめた意見を比べて、更にそこに共通点を見つけ出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにまとめられた意見から共通する部分に着目させる。 ・小学校で学習した内容なども想起させながら考えさせる。 	
<p>辰川・片山・内神・惣付・畝原といった地域では、家に土砂が流れ込んでくるような大きな被害はなかったが、あちこちで崖崩れがたくさんあった。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ これらの共通点が意味しているのは何だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地が多くあることを地図でも確認する。 	
<p>私たちの暮らしている地域は急傾斜地が多く、大雨が続くと災害が発生する危険性がある。</p>		
<p>4 本時の学習の振り返りを次時への課題につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の災害で危険箇所がこれだけあることが分かった → 過去にも大きな被害の出た災害があったかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをさせながら、3で確認した、地域の特徴について考えながら、次の課題を見出すようにつなげていく。 ・「家族や地域の人たちから、地域における自然災害の歴史について聞き取ってみよう。」と投げかけ、次の時間までの課題として提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合ったことを基に、課題を見付けている。[知識・技能] ◎地域のために自分たちができることを考えている。[協働的な態度] 《行動観察、ワークシート》

【生徒の変容】

生徒は、地域と一体となって防災訓練だけでなく、様々な体験を積み重ねており、継続的に「協働的な態度」が育ってきている。その中でも、毎年11月に校区内の地域総合防災訓練に参加することで、地域の方と協力する大切さを実感することができたり、地域のために貢献したいという思いをもつことができたりといった関心・意欲を高めることはできている。

しかし、地域の様々な団体が積極的に活動していることで、「自分たちが何かしなければならぬ」という思いに至っていない生徒や、同じ目的に向かって、地域の方や仲間と協働して活動することに課題がある生徒がいる。

そこで、本単元では「協働的な態度」という資質・能力の育成に向けて、班単位で協働していく取組を中心に、学年単位(実行委員会)で協働していく取組や地域の人と協働していく取組など、様々な形で「協働的な態度」を伸ばしていくよう活動を計画、実施した。

その結果、地域の自治会の方とフィールドワークをすることで、「地域の危険箇所を確認する」ことだけでなく、「こんなに危険な箇所がある地域だから地域の皆さんとの関わりを普段から深めることが大切だ」等、生徒は地域との協働の大切さを実感することができ、協働的な態度を育成することができた。

また、目的、取組内容等が生徒にとって明確で、必然性があったことで、生徒は見通しをもって活動することができ、班または学年の中で、自分は何をすべきか役割を意識して活動する生徒の姿が多く見られたことも成果である。